

2022年2月27日（日）／説教者：神谷武宏

説教：「わたしもあなたを罪に定めない」

聖書：ヨハネによる福音書8：1～11

イエスが神殿の境内で教えていると、律法学者やファリサイ派の人々がイエスを試みようとして、一人の罪を犯したとされる女性が大勢の民衆の前に連れて来られた。そして、イエスに言う。「先生、この女は姦通をしているときに捕まりました。こういう女は石で打ち殺せと、モーセは律法の中で命じています。ところで、あなたはどうかお考えになりますか。」イエスがこの姦通の罪を犯したとされる女性をどう裁くのか、イエスだったらどのような裁きを下すのか、そういうところに注目が集まり、イエスの次の言葉が待たれた。

ここでイエスが、「赦しなさい」と言えば、律法を破ることになり、「打ち殺せ」と言えば、これまで赦しを説いてこられた教えと矛盾する。どちらにしてもイエスは窮地に陥ることになる。イエスは言う、「あなたたちの中で罪を犯したことはない者が、まず、この女に石を投げなさい」と。「これを聞いた者は、年長者から始まって、一人また一人と、立ち去ってしまい、イエスひとり、真ん中にいた女が残った。」このことは、あなた方に人を裁く資格はあるのか、ということでもあるわけだ。

律法学者やファリサイ派の人々にとってこの裁くという行為は、「律法（聖書）」というものを通して、当然のように裁く指針と位置付けた。どうだろうか？今の私たちも聖書を裁きの指針として位置付けてはいないか？聖書にこう書いてあるからと言って人を裁くことはないか？私たちもまた「裁く」ことを容易く行っていないか。しかし、イエスにとって「律法」は、裁くものではなく、赦しを説くものであった。

もう一つ。「イエスはかがみ込み、指で地面に何か書き始められた」とある。何故、一見無関心にも見えるような態度を取っているのか。それは、真ん中に立たされた女性、裁かれる一人の女性にここに集う民衆の厳しい視線が注がれている中で、イエスのみが視線をそらしているところに意味があろう。人々の視線が注がれ、厳しくとがめられている一人の女性。イエスを試みるための道具にされた女性。多くの民衆の視線の中で、イエスのみが視線をそらしておられる。そこには、イエスの彼女に対する憐れむ思いと慰めがあり、また裁く人々の心を悲しむ思いが、そこには秘められているのではないか。

「わたしもあなたを罪に定めない」と言うてくださるイエスの言葉には、福音が、愛が満ち溢れている。（神谷）